

## 講演会

## 藤田嗣治の視線 — 絵画と写真のはざまで

藤田嗣治はエコール・ド・パリを代表する画家のひとりです。人物や風景を繊細なまなざしで捉えた藤田の独創的な絵画作品が生まれた背景には、当時、普及しつつあった写真や映画など映像メディアの存在がありました。絵画と写真の深い関係を解き明かします。

講師 さとう ゆきひろ 佐藤 幸宏 氏 (札幌芸術の森美術館館長、本展監修者)

日時 2026年2月22日(日) 午後1時30分～3時 (受付・開場: 午後1時)

会場 地階講堂 (申込不要、参加無料)



1959年生まれ。成城大学大学院文学研究科博士課程前期(美学美術史専攻)修了後、北海道立近代美術館学芸員となる。同館学芸副館長を務め、定年退職後は小樽芸術村・似鳥美術館館長等を経て、現在は札幌芸術の森美術館館長。

北海道立近代美術館では「没後40年 レオナルド・フジタ展」(2008年)、「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」(2017年、2018年度日本ジャポニズム学会展覧会賞受賞)などを担当した。2006年以降、藤田嗣治の展覧会や研究に従事するとともに、最晩年の藤田夫人(藤田君代氏)と交流し、夫人の没後は藤田の遺品や夫人旧蔵品の整理などにも関わる。また、「壁画《秋田の行事》からのメッセージ—藤田嗣治の1930年代—」展(2013年、秋田県立美術館)、「レオナルド・フジタとモデルたち」展(2016年、DIC川村記念美術館ほか巡回)など、藤田関連の展覧会の監修も手がけている。

藤田関係の著書に『花美術館(第34巻) 特集・聖と俗のコントラスト 藤田嗣治』[監修・共著](株式会社花美術館、2013年)、『藤田嗣治画集 巴里』[共著](小学館、2014年)、『別冊太陽 藤田嗣治 腕一本で世界に挑む』[監修・共著](平凡社、2019年)などがある。

## 学芸員による鑑賞講座

## 描く藤田／撮る藤田／撮られる藤田

講師 さわどまり 澤渡 麻里 (本展担当学芸員)

日時 2026年3月22日(日) 午後2時～3時30分 (受付・開場: 午後1時30分)

会場 地階講堂 (申込不要、参加無料)



## 学芸員によるギャラリートーク

講師 澤渡 麻里

日時 2026年4月4日(土) 午後2時～3時

会場 企画展示室 (申込不要、参加無料、要企画展チケット)



(上) ボリス・リブニツキ《藤田嗣治》1925年頃 シャーマン・コレクション(河村泳静氏所蔵/伊達市教育委員会寄託)

(下) ドラ・カルムス(マダム・ドラ)《猫を肩にのせる藤田嗣治》1927年 東京藝術大学

## 写真ワークショップ

## チェキ™で撮るポートレート

1920年代のパリで活躍し、多くのポートレート写真が残る画家・藤田嗣治。ワークショップでは、写真を通して「見せたい自分」を打ち出した藤田の巧みなセルフ・ブランディング術にも思いを馳せながら、自撮り、他撮りのポートレートに挑戦！撮ってすぐにプリントを手にとれるチェキ™（インスタントカメラ）を使って、ポートレートを撮ってみましょう。ポートレートの撮り方のコツを学びながら、デジタルとは異なるアナログ写真の魅力に触れてみませんか？

日時 2026年3月7日(土) 午前の部 10時～12時 午後の部 2時～4時

講師 まつもと み え こ 松本 美枝子 氏 (写真家・美術家)

※午前午後ともに同じ内容

会場 茨城県近代美術館 地階講座室

定員 各回20名程度 (中学生以上、要事前申込【Webのみ】、要企画展チケット)

参加費 500円 (事前決済) 及び行事保険加入料50円 (当日現金)

※右の2次元コード (詳細及び申込方法) から申込

※申込開始日: 2026年1月20日(火) 午前9時30分、定員に達し次第締切

※カメラ等の機材は当館でご用意いたします



詳細及び申込方法

## &lt;講師略歴&gt;

写真家・美術家。1974年茨城生まれ。茨城とリオデジャネイロを拠点に活動。写真や映像、光、音、テキスト、パフォーマンスなど、さまざまなテクノロジーとメディアを横断しながら、知覚のあり方を問い直す試みを続ける。近年は自然環境と社会構造の関係についてリサーチを重ねて、地層、歴史、人間の移動などをテーマとした作品を制作する。並行して南米やヨーロッパでも撮影を行い、インスタントカメラ (instax) を用いた最新作では、風景の中にとどまる光を写しとるシリーズを展開している。



©MIEKO MATSUMOTO

協力: 富士フイルムイメージングシステムズ (株)

茨城県近代美術館

〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1  
Tel 029-243-5111 Fax 029-243-9992  
E-mail: eventbox@modernart.museum.ibk.ed.jp